

2014年度 第2回放送技術講座 1年生アナウンス大会 講評一覧

2014/11/02 実施

会場	番号	評価	講評など
----	----	----	------

審査員

- A会場 内野 洋子 (プール学院)
榎並 徳次 (大阪学芸)
安田 知博 (放送部インストラクター)
- B会場 鎌田 潤 (元放送コンテスト委員長)
秋本みゆき (大阪市立南)
西野 宏美 (大教大附属平野)

各会場3人の審査員が10点満点で採点し、30点満点で評価しました。

各会場上位5人をA評価とし、優秀賞としました。

A評価まで1～7点の人をB評価、8点～の人をC評価としています。

審査員からいただいたコメントをまとめ、「講評など」として掲載しています。

A会場については、審査員の安田先生からのコメントが届きしだい掲載します。

※ 各会場の審査番号順に掲載しています。

個人情報保護のため、学校名・名前の掲載は控えさせていただきます。

大阪府高等学校視聴覚教育研究会
放送コンテスト委員会

2014年度 第2回放送技術講座 1年生アナウンス大会 講評一覧

2014/11/02 実施

会場	番号	評価	講評など
A 会 場	1	B	
	2	C	
	3	B	
	4	B	
	5	B	
	6	B	
	7	B	
	8	A	
	9	B	
	10	B	
	11	B	
	12	B	
	13	C	
	14	A	
	15	B	
	16	B	
	17	B	
	18	B	
	19	B	
	20	B	

2014年度 第2回放送技術講座 1年生アナウンス大会 講評一覧

2014/11/02 実施

会場	番号	評価	講評など
A 会 場	21	B	
	22	B	
	23	B	
	24	B	
	25	B	
	26	B	
	27	B	
	28	B	
	29	A	
	30	A	
	31	B	
	32		欠席
	33	B	【制限時間に注意】
	34	B	
	35	A	
	36	B	
	37	B	

2014年度 第2回放送技術講座 1年生アナウンス大会 講評一覧

2014/11/02 実施

会場	番号	評価	講評など
B 会 場	1	B	「サ行」に注意。特に「す」。別な切り口もほしい。教員をしながら研究することなど…。何科の先生かわからなかった。「爆発」「物理(ぶ)」が聞き取りにくい。落ち着いて読めていた。「あたえる」のアクセント。名詞をたてる。
	2	B	文末処理。声がかもって聞こえる。音のさばき方に注意。アクセント(特に数字)に注意。意味の切れ目で読むように。高低を考えて読むように。「サ」行の発音。「プラナリア」など聞いてわかりにくい名詞ははっきりと発音を。会話文と地の文の差がしっかりわかるように。
	3	B	文末近くで跳ね上がる。文が少し長い。高低アクセントをしっかりと。焦って早口にならないように、長い文をもう少しゆっくり読んだ方がよい(特に大事な言葉の時)。「生徒会」のアクセント。
	4	B	声は聞きやすい。「数学科。」内容としては当たり前すぎる。原稿に工夫が必要。新任の苦勞を引き出してほしい。先生の名前をもう少ししっかりと。もう少しトーンを上げてほしいのでは？内容のわかる読み方ができている。台詞の入りは高く。ノートの内容がわかりにくい。
	5	B	楽しそうな様子が伝わってくる。マイクに近い。「サ」行。文末処理。「」の引用部分に注意。引用文を低く始めるのは意識ですか？出だしの文は興味を引こうとはしているが、ニュースとしては良くないアナウンスとして読んでいることをもう少し意識して。
	6	C	音の粒立てが悪い。声が震えている。おなかからしっかり声を出そう。文章はもっと推敲しよう。固有名詞が不明瞭。引用することが意味がない。ナンバーコール、もう少ししっかりと。ぶつぶつ切れた読み方になっています。「～ですね」というのはアナウンスでは不適切。
	7	B	取材は良くできている。文末の「ます」に注意。「～だけに」「集中して」「10月」、動詞の連用形のアクセントに注意。「利用者数」しっかりと。
	8	B	内容はおもしろい。声が小さいのでしっかり声を出そう。口先読みに聞こえる。もう少しゆったりと。終わらせ方、文章が良くない。リード文に工夫必要。「図書室」しっかり発声を。文末早い。名詞は語頭からはっきりと。
	9	B	聞き取りにくい。語句がいくつかある。不必要な教科がある。内容、題材はおもしろい。リード文はニュース原稿としての形から外れている。「校内ニュース」なので「私の通う学校では～」という表現は不適切。「うまさ」をアナウンスで使う言葉としてはどうか…
	10	B	声にもう少し張りがほしい。声量があるとなお良い。アクセント「行われた」「認められた」「訳にも」読めていない。動詞の連用形のアクセントに注意。文末、下げた方がよいところあり。チャリティに携わっている生徒の声もあると良い。
	11		欠席
	12	B	風景でなく光景。「っ」音。靴箱のアクセント。ナンバー聞き取りにくい。内容の構成がわかりにくく、「校内ニュース」としてはひと工夫ほしい。文頭の体言止めはアナウンス原稿としては…。
	13	A	少し暗く感じるので、もう少し、「いいニュース」らしく読もう。ニュース性はあるので、文章にはさらに推敲が必要。聞き取りやすい。引用文の後のフレージングに工夫。
	14	B	句末が不自然に強い。「さる～」「～でしょう」「終わってしまう」「ありがとう」はニュースには使わない。「校内ニュース」であるとことを踏まえて、構成を考えて。もう少し読み込もう。
	15	B	マイクに近すぎる。文末はしっかりと止める。早口で落ち着きがなく聞こえる。「すすんで」のアクセント。ナンバーコールのアクセント。ひとつ一つの単語をしっかりと。「ダ行」しっかりと。母音の発音がはっきりしないところがある。先輩の台詞が長く、読みにくそうなので、内容をもう少し考えて。
	16	B	声が素直に出てこない。話題が整理できていない。アクセントが乱れているところがあり。「目標」が「もきひょう」に聞こえます。
	17		欠席
	18	B	「花たち」OST? 「ち」「つ」の発声に注意。引用部分の絞り込みが必要。もっとゆったり読もう。ぶつ切りに聞こえる。どの語に係っていく言葉なのかを考えて読むようにすると良くなる。種は「植える」ではなく「蒔く」では…? 「はなさかそう」の語尾を上げない。
	19		欠席
	20	B	「す」「つ」音に注意。終わりの方少し歌うような調子になるので注意。もっと自然に読もう。「ダ」行に注意。少しゆっくり過ぎるように聞こえ、単語が伸びて聞こえる。読み方にうねりあり。「バラのかおりで幸せに…」は台詞でも良かったのでは…?

2014年度 第2回放送技術講座 1年生アナウンス大会 講評一覧

2014/11/02 実施

会場	番号	評価	講評など
B 会 場	21	B	フレーズ不自然。生徒に対して「伺う」は使わない。最後の文は情報が不足し、不親切。「何をお送りします」なのかわからないリード文になっている。抑揚つけすぎ、もう少しあっさり読んでも良いのでは？「～ではないでしょうか」はアナウンス向きではない。「～」だそうです。の台詞と地の文の間を空けないように。
	22	B	声は良いので、フレーズなどをもっと意識し、もう少しハキハキと読もう。引用は必要ですか？固有名詞がわかりにくい。何科の人なのか聞こえなかった。単調に聞こえるので、大事な単語はしっかりたてよう。
	23	B	発音・発声はしっかりできている。文末の「ます」フレーズにも注意。原稿について、東洋文庫の解説は不要。情報の整理をしよう。「閉架書庫」など耳で聞いただけではわかりにくい用語は「書庫にはいつている」など説明をするとよいかも…。台詞と地の文の間を空けないように。ところどころ走る所あり。
	24	B	重要な読み飛ばしあり。(校長) 終わり部分の文章はもっと推敲して。女性で初めての先生ではなく校長先生ですね？(校長の部分が聞こえませんでした。)アナウンス原稿に体言止めは良くない。
	25	A	元気があって良い。フレーズなどもう少し考えて。次のふりが唐突な印象なので、もう少し何かあっても良いのでは…。少しマイクに近い。鼻濁音がもう少し。文末はしっかり止めて下げよう。「進路」が「しんの」に聞こえる。強く読み過ぎの箇所あり。もう少し力を抜いて。
	26	A	聞き取りやすい声。最後の一文は不要。文章を全体的に練り直そう。「ビッグニュース」は校内放送としてはOK？ちょっと～がうねっている感じが。長い文の読み方を練習しよう。
	27	A	「サ行」音に要注意。鼻濁音はもう少し。入りの音量が小さかったので、マイクの使い方に注意。連絡事項とニュースの部分の区分がわかりにくい。明るいニュースなので読み方に工夫を。文末、しっかり落ちきっていないところがある。低い声になっても、アクセントなどしっかり注意を。
	28	A	「ち」音強い。出だしがほわっとしていた。落ち着いて読んでいる。聞き取りやすくて良かったが、間を空けすぎている箇所が気になる。「80」のアクセント？
	29	B	文章の長さの都合で、フレーズが良くない。内容的にも物足りない。ナンバーコールをしっかりと。文頭はしっかり上げよう。体言止めはアナウンスとしては良くない。文の後半、聞き取りにくくなるのが有り。下げすぎている？しめの文、文学的表現はあまりアナウンス向きではない。
	30	B	声をしっかりだして、もっとハキハキと元気よく、おなかに力を入れて読もう。文の後に行くほど小さくなるので、しっかりと支えて。読み方が暗い。別な切り口がほしい。
	31	B	声がかもっている。話題性はあるので、文章をもう少し練ろう。「サ行」しっかりと。抑揚をつけすぎている。「カ行」「サ行」の発音に注意。「フィレンツェ」…固有名詞の発音に注意。
	32	C	声がかもっている。原稿に再考必要。文の重複が目立つ。フレーズをしっかりと考えよう。「32」番のアクセント。全体的にアクセントが大阪アクセントになっている。「ち」「じ」「か」行の発音に注意。
	33	B	声は聞き取りやすいが、抑揚が付いてしまって、文の読みにうねりあり。文のかかりうけを考えて、高低をつけて読むと良くなる。文は上から下へ読むことを練習しよう。原稿に書かれていない部分がある。最後の一文不要。緩急にも工夫を。一文が長いのもっと構成を考えて。
	34		欠席
	35	B	「サ行」(特に「し」)に注意。「ありました」の「し」が響かない。たぶん「イ」段全体が曖昧な発声になっている。発音が良くなればすごく良くなる！ しめの文、固有名詞なのでもう少したてよう。
	36	B	フレーズが短すぎる。最後の一文、場違い。短い文節ごとに入る間少し長いので、ぶつ切りに聞こえてしまう。文中で急に強い読み方になる箇所がある。